

# 未来の東京に向けた水辺整備のあり方検討会

隅田川等における新たな水辺整備のあり方（次の展開にむけて）

第4回検討会2023.2.6

## 「未来の隅田川」に向けて

隅田川等の水辺空間では、下流域を中心に水辺と街の連続性・回遊性を高め、水辺のにぎわいを生む取組が進んできました。

これまでの取組やポストコロナを見据えた社会情勢の変化等を踏まえ、水辺のオープンスペースが持つ『ゆとりや潤い』を生かした今後の水辺整備のあり方について検討します。

「未来の東京」戦略掲載案件 戦略13水と緑溢れる東京戦略  
【ゆとりと潤いにあふれる水辺空間の整備】

# 『未来の東京に向けた水辺整備のあり方』検討会 概要



## 目的

隅田川下流域を中心として展開している「水辺の魅力を活かした東京の顔づくり事業」について、社会情勢の変化を踏まえ、水辺の『ゆとりと潤い』を生かした今後の水辺整備のあり方について検討する。

## 検討項目

- ゆとりや潤いを生かした水辺空間の基本的な考え方に関する事項
- 隅田川等における今後の水辺整備に関する事項
- 官民連携に関する事項
- 恒常的な利活用への仕組みづくりに関する事項

## 検討体制

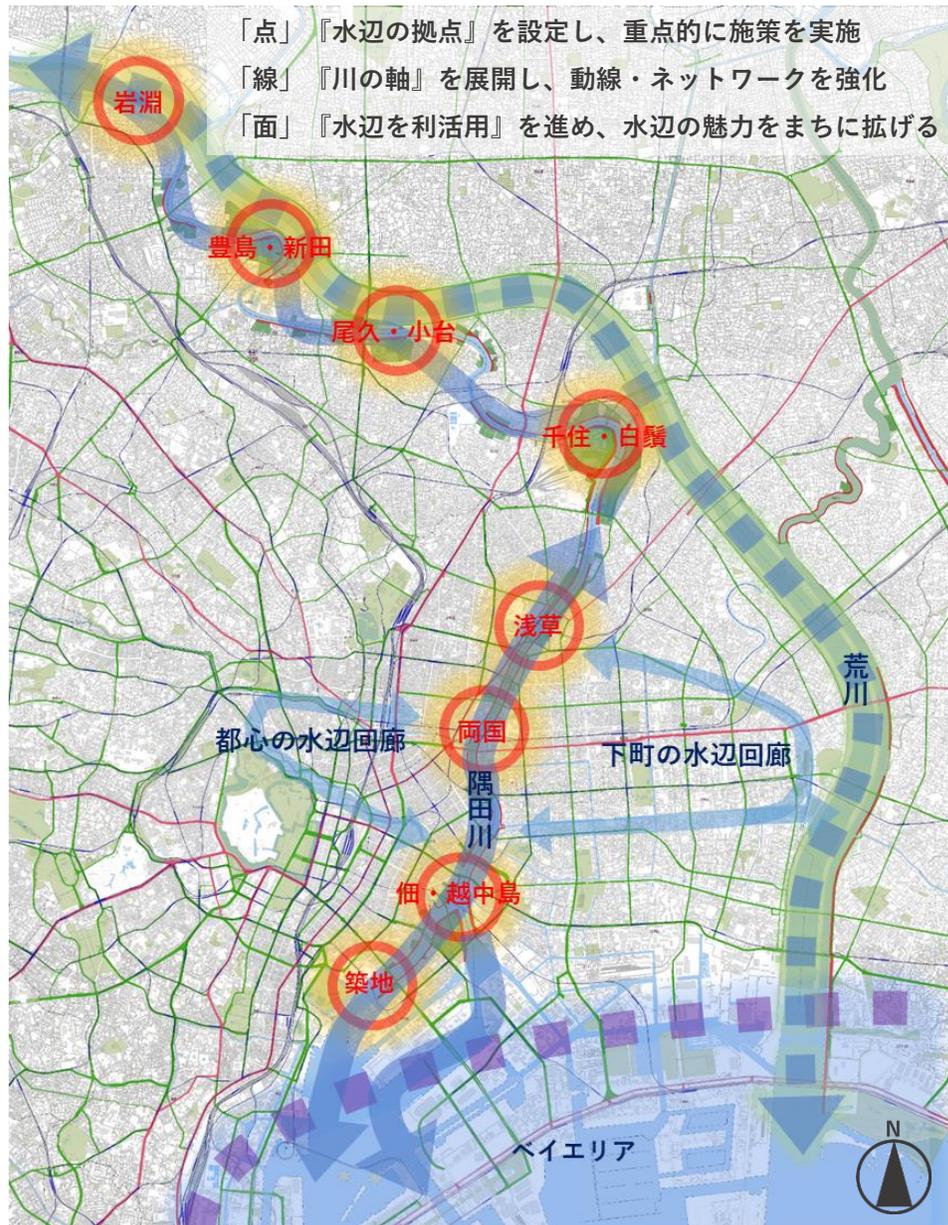
専門家会議として設置し、外部の専門的知識を踏まえて、今後のあり方について検討する

- 学識委員 (河川、都市計画、地域分析、エリアマネジメント)
- 行政委員 (沿川7区、関連行政部署)

## スケジュール

- 第1回：これまでの評価、基本的な考え方 など
- 第2回：重点エリアの考え方、整備メニュー など
- 第3回：恒常的な利活用に向けての仕組みづくり など
- 第4回：今後の展開 とりまとめ構成 など
- 第5回：とりまとめ

# 『水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくり』



## 水辺のゆとり・うるおい・にぎわいをつなぐ

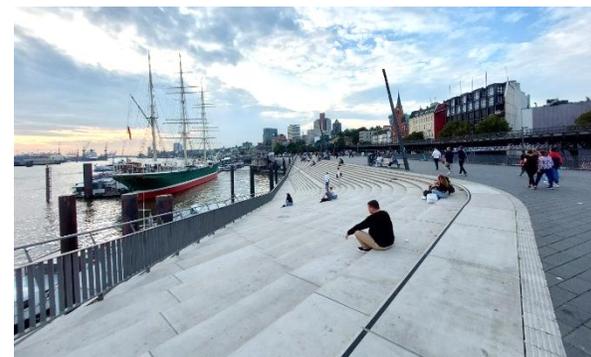
### 居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出

- 新たな重点施策エリアの設定
- 水辺の動線強化の更なる展開（照明、テラス連続化、スロープ等）
- ウォーカブルな水辺空間の創出 等



### まちづくりと連携した河川整備の推進

- 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の水辺整備
- 地域の交流や街の活性化につながるまちづくりとの連携 等



### 恒常的な利活用への仕組みづくり

- 特例占用の更なる活用による水辺のにぎわい創出
- 多様な主体の活動連携や情報発信強化 等



### 新たな事業展開・連携

- 隅田川・荒川の舟運等ネットワーク構築
- 健康増進や防災意識向上、他河川への展開等の事業連携 等

『水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくり』による取組イメージ

## 居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出

隅田川全域でまちと連携した水辺のウォーカブルネットワークを創出する

□ 新たな重点施策エリアの設定（8つの水辺拠点）

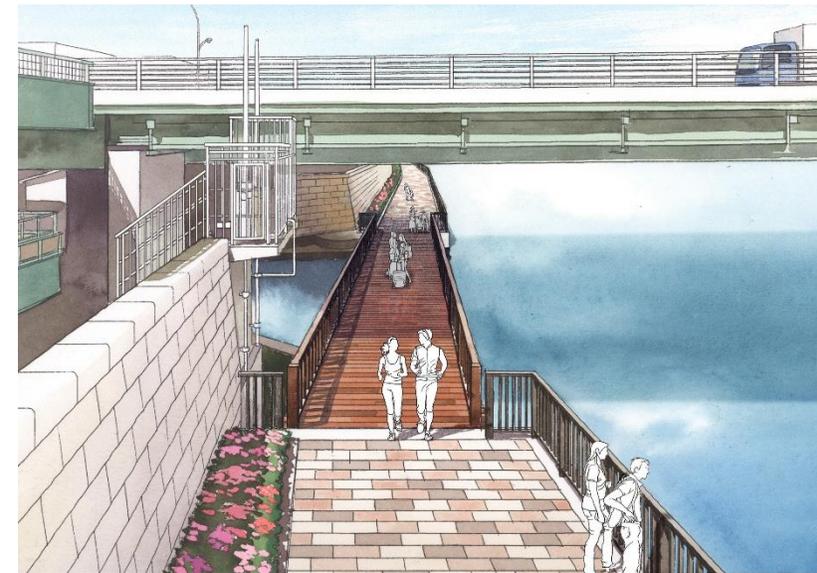
→ [築地] [佃・越中島] [両国] [浅草] [千住・白鬚] [尾久・小台] [新田・豊島] [岩淵]

□ 水辺の動線強化の更なる展開（照明・連続化・スロープ等）

→ 動線強化施策の下流の拡充と上流への展開

□ ウォーカブルな水辺空間の創出（歩きやすい・居心地の良い空間）

→ 老朽化した舗装の再修景、段差解消、緑化の充実、ベンチ、サイン等



# 居心地が良く歩きたくなる水辺空間の創出に向けて

## 水辺の拠点と動線強化によるネットワークの構築

水辺と街のつながりを生む水辺の拠点を設定し、水辺の動線強化やまちづくりとの連携、拠点間のネットワーク構築等の取組を誘導・連携させる。

これにより、地域の安全と魅力の両面から水辺のオープンスペースを活用していく。特に動線強化においては、水辺と街の連続性や回遊性、災害時の点検・避難路の確保等の機能を高めていく。

将来的には、隅田川全体をウォークラブルな空間としてつなぎ、水辺のゆとりと潤いを上下流全体で活かしていくことを目指す。

## 水辺の拠点の設定

- 水辺の拠点を設定し、関係者の取組を誘導・連携させて、次の機能を創出
  - ① 水辺と街の関わり強化
  - ② 水陸の交通結節機能の向上
  - ③ 安全で快適な利活用の基盤創出
  - ④ 他水域とのネットワーク形成

## 水辺の動線強化の展開

- テラス照明による夜間の動線、避難経路の確保
- スロープや階段等による橋詰部や船着場等からのアクセス性向上
- テラス不連続部の解消（支川合流部、橋梁下部など）

## ウォークラブルな水辺空間の創出

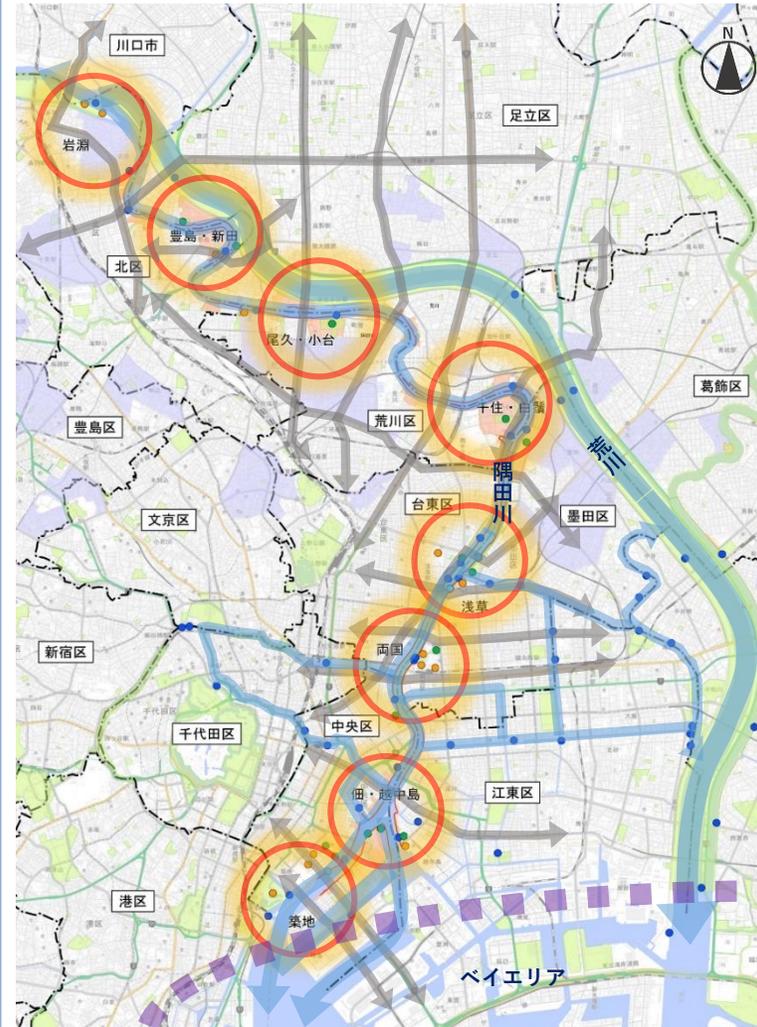
- 老朽化したテラスの再修景
- 段差解消や緑化の充実、ベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上
- 居心地の良さや歩きやすさに着目したデザイン導入の検討



ウォークラブルデザインを導入した水辺空間  
(柏の葉アクアテラス)

著作権所有者：(C)JDP、サイト名：GOOD DESIGN AWARD  
リンクURL：<https://www.g-mark.org>

## 「水辺の拠点」設定の視点



水辺の拠点は、沿川の街と河川との関係、道路や舟運等の交通結節、安全で快適な利活用を行う基盤、荒川やベイエリアとのつながりを勘案し、上下流で8つのエリアを設定する。

【視点①：街との関わり】  
街とのつながりや地域資源等

【視点②：交通結節】  
道路や舟運等の交通結節  
(街道や防災船着場等)

【視点③：利活用の基盤】  
安全で快適な利活用を行う基盤  
(スーパー堤防等)

【視点④：ネットワーク】  
荒川やベイエリアとのつながり

- 凡例
- 公園緑地
  - 水域
  - スーパー堤防事業化区域
  - 木造住宅密集地域整備事業実施地区
  - 主要道路網
  - 水辺の拠点
  - 船着場
  - 簡易船着場
  - 公園
  - 地域資源

※拠点の凡例は、範囲を示すものではない

『水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくり』による取組

## まちづくりと連携した河川整備の推進

まちづくりの機会等を捉えた官民連携による水辺の拠点整備を推進する

### □ 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の河川整備

- 再開発や都市再生等のまちづくりと連携した河川整備（築地、両国、浅草、千住等）
- 荒川高規格堤防や沿川公園と連携した河川整備（小台、新田、町屋等） 等

### □ 地域の交流や街の活性化につながる「まちづくり」との連携

- 沿川地域のまちづくりビジョン等の都市計画・景観誘導との連携（浅草、日本橋等）
- 地域や民間による利活用と連携した河川整備や河川施設等の活用（越中島、江東内部河川等） 等



# まちづくりと連携した河川整備の推進に向けて

## 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の河川整備

再開発や公園等と連携したスーパー堤防等の河川整備を行う際に、民間活力を最大限に引き出していくために、官民連携による河川整備手法の検討と実践を進めていく。

地域ごとの沿川開発のニーズや公園利用手法等によって状況が変わるため、地域の特性に応じた手法を選択していく必要がある。

### 【まちづくりと連携した河川整備手法の検討ケース事例】

- ①沿川再開発等と連携した修景整備やエリアマネジメントの検討
- ②堤防敷地や船着場待合施設等の河川施設の活用検討
- ③広場や駐車場等を併せ持つ多機能な堤防等の検討 等



沿川再開発事業による修景整備やエリアマネジメントのイメージ



緩傾斜の堤防敷地を活用している事例  
(新潟市・信濃川やすらぎ堤)



広場や駐車場等を併せ持つ多機能な堤防の事例  
(ドイツ・エルベ川)

## 地域の交流や街の活性化につながる「まちづくり」との連携

地域ニーズに合わせて、テラスや堤防天端、水面等の活用も多様化している。地域や民間による利活用と連携した河川整備や河川施設等の活用を進めていくことで水辺と街のつながりを強化していく。

### 【隅田川における試行事例「すみだかわオープンテラス」】

- 隅田川での恒常的な利活用の試行である「すみだかわオープンテラス」等を引き続き実施し、まちづくりとの連携手法の検討と気運醸成を行う。
- 河川敷地を「イベント広場」として占用し、関係者調整や利用手続きの一元化、船着場関連施設や河川水面の活用等の検討を進め、地域の交流や活性化につながる水辺空間を創出していく。



越中島エリアでのマルシェの様子



船着場関連施設の活用・連携のイメージ



イベント広場の事例  
(目黒川船入場)



河川水面の活用事例（レストラン船）  
(大阪市・大正タグボート)

# 『水辺のゆとりと潤いを活かした東京の顔づくり』による取組

## 恒常的な利活用の仕組みづくり

多様な利活用を生み、持続可能な水辺のマネジメントを促す仕組みを目指す

### □ 特例占用の更なる活用による水辺のにぎわい創出

- 民間事業と連携した利活用推進（民間主体の河川空間マネジメント、イベント広場等の面的な占有）
- まちづくりと連携した利用環境の向上（アクセスサインや電気・水道・トイレ等の環境整備） 等

### □ 多様な主体の活動連携に向けた仕組みの構築や情報発信の強化

- 中間支援組織等による水辺の利活用の促進（情報・諸申請・調整・河川還元等の一元化）
- 隅田川サポーター等による水辺の活動連携や情報発信強化 等

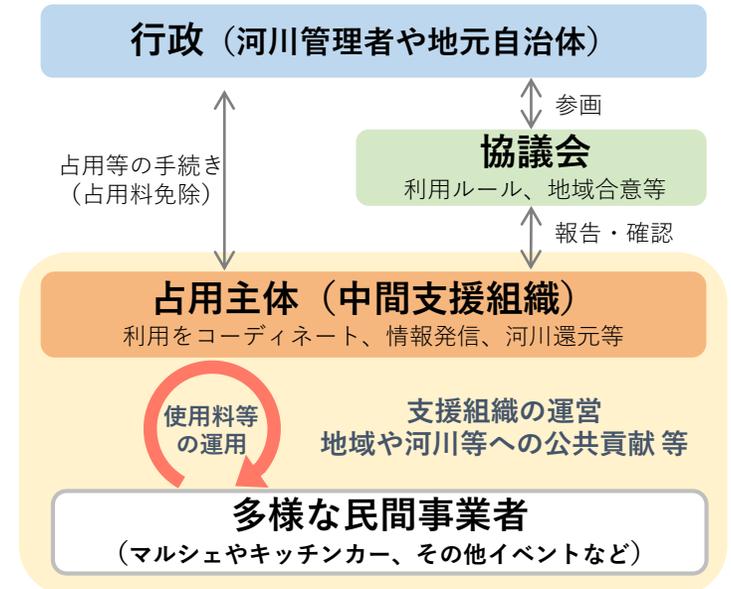


■ エリア一帯の空間マネジメント範囲  
□ 「広範囲の維持管理範囲」または「河川管理施設の一部整備」

民間主体の河川空間マネジメント導入イメージ  
(出典：社会資本整備審議会第62回河川分科会資料)



中間支援組織によるイベント広場等の運用イメージ



# 恒常的な利活用の仕組みづくりに向けて

## 【これまでの取組を推進する方策】

### ①水辺を利活用する場や環境の創出

- 人々の活動を促す舞台となる場とする
- 照明やスロープ、連続化等の動線強化
- アートイベントやラン&ウォークマップ等の支援 等

### ②特例占用等の活用促進

- 利活用を見える形で示し、機会を生む
- かわてらすやオープンテラス等の試行 等

### ③水辺の活動組織等への支援

- 利活用を支援する人やノウハウの蓄積する
- 隅田川サポーターによる情報発信や活動連携 等

### ④官民連携の推進と河川施設の多機能化

- 公共と民間がお互いにメリットを得られる形での整備や管理運営で連携する
- 両国リバーセンターや東京ミズマチ等の官民連携事業
- 防災船着場の一般開放 等

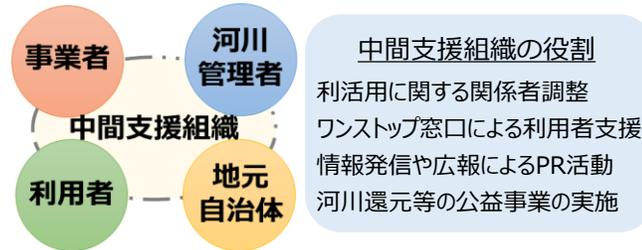
### ⑤水辺の維持管理や地域貢献等の推進

- 地域や民間の利活用することで水辺の魅力向上を図り、さらなる利活用を促す
- 東京都公園協会と連携した花守さん等の水辺公益事業
- 再開発に伴うエリアマネジメントとの連携 等

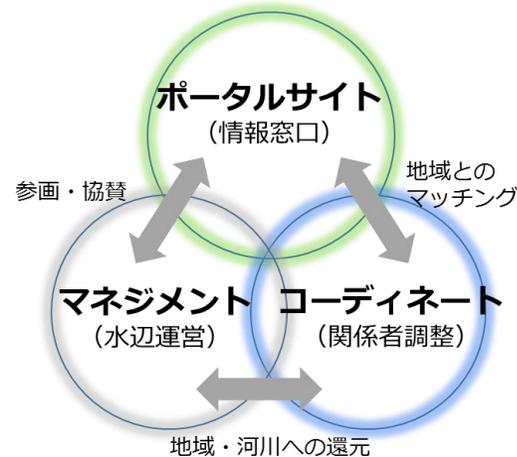
## 【導入すべき仕組み】

### 水辺のエリアマネジメント

- ✓ 中間支援組織による情報・諸申請・調整・河川還元等の一元化し、水辺の利活用促進
- ✓ 河川敷地の活用と沿川エリア価値向上に伴う原資を担保とした組織運営を目指す



水辺の利活用を促す中間支援組織の機能



## 【将来的な利活用の仕組み】

### 広域的な利活用の調整・連携

行政と地域・民間の間を取り持つ広域的な情報共有や連携等を行う仕組みの構築を目指す

#### 【広域的な方向性のモニタリング】

各拠点の特性や取組の状況を共有し、隅田川全体での方向性の調整、地域ごとの連携を促す

#### 【地域ごとの水辺のエリアマネジメント】

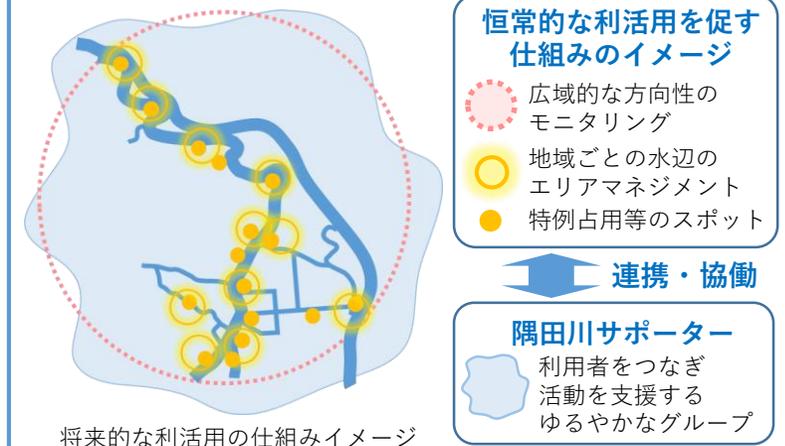
地域での活動や特例占用の活用等による水辺の利活用を核に地域ごとの水辺空間のマネジメントを行う。

#### 【特例占用等のスポット】

地域のニーズに応じた水辺空間でのボランティアや特例占用を活用した民間事業等を推進していく

#### 【隅田川サポーター】

隅田川での地域や民間の活動の情報共有・発信を行い、利用者をつなぎ機運醸成等を図る



将来的な利活用の仕組みイメージ

## 新たな事業展開・連携

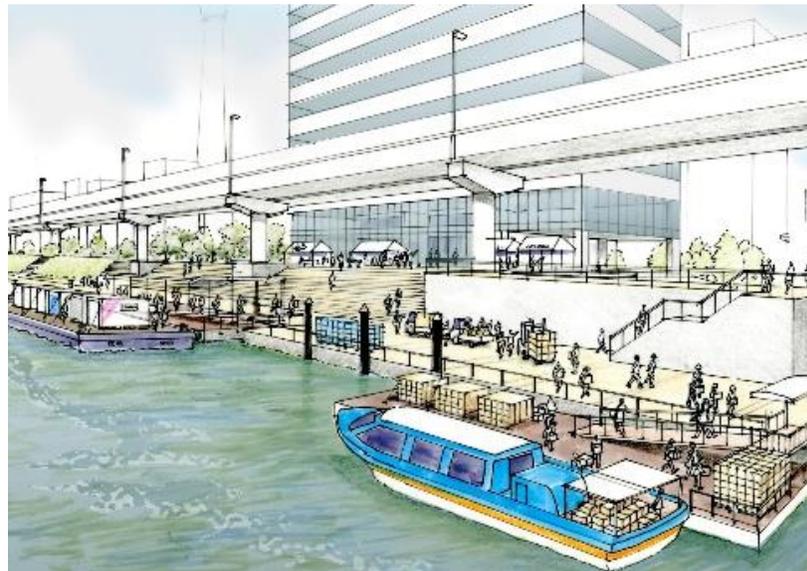
隅田川上流域や他河川等での可能性を模索し、新たな水辺の利活用へと広げていく

### □ 隅田川・荒川のネットワーク構築

- それぞれの河川の特徴を活かした拠点をつなぐ舟運や自転車、ランニング等の利活用促進  
(防災船着場の平常時利用拡大、荒川緊急用河川敷道路の利用連携、舟運を活かしたインフラツーリズム等)
- アウトドアやアートイベントなどの拠点の魅力を高めるシティプロモーションとの連携 等

### □ 健康増進や防災意識向上、他河川への水辺利活用の展開・事業連携

- ウォーキングコースの設定等による健康増進への取組や舟運による防災訓練の展開
- 利活用のルールや先例事例などの情報発信強化による他河川への展開 等



# 新たな事業展開・連携に向けて

## 隅田川や荒川等の水辺を基軸としたネットワークの構築

隅田川・荒川・支川等のそれぞれの特徴を踏まえて、河川やテラス、高水敷、防災船着場等をつないでいく取組を展開し、水辺を基軸としたネットワークを構築していく。

### ① 隅田川テラス

- ・テラスやスーパー堤防による歩行動線の連続性を高めていく。テラスの自転車通行はできないが、散歩やランニング等の動線つなぐことができる。



隅田川テラス

### ② 荒川河川敷（緊急用河川敷道路）

- ・災害時の物資輸送等のため、緊急用船着場とも接続している。自転車の利用も多く、防災・利用両面のネットワーク機能を有している。



荒川河川敷  
（緊急用河川敷道路）

### ③ 支川等の水辺回廊やベイエリア

（都心の水辺回廊）

- ・神田川や日本橋川等の都心部を流れる支川

（下町の水辺回廊）

- ・荒川と隅田川を結ぶ小名木川等の江東内部河川

（上流の支川）

- ・新河岸川や石神井川等の上流側の支川

（ベイエリア）

- ・葛西や豊洲等の河口に広がる港湾区域



水上バス・防災船着場

### ④ 防災船着場等

（防災船着場）

- ・災害時に避難や救急物資の輸送等のために整備
- ・下流域では平常時利用（一般開放）を一部で実施（簡易船着場）



簡易船着場

## 水辺の拠点におけるまちづくりとの事業連携イメージ

水辺の拠点では、河川整備を進めると同時に沿川地域の特性に合わせた地域交通やシティプロモーション等のそれぞれの自治体ごとのまちづくり事業を連携させることで、水辺と街のつながりを強化していく。

それにより、それぞれの水辺の拠点をつなぐ結節機能の強化を目指す。

### 《水辺の拠点における取組の連携》

連携1：水辺の拠点を中心に「水辺に顔を向けたまちづくり」を展開

連携2：隅田川や荒川等の特徴を活かした人や自転車、船等の多様な交通結節機能を強化

連携3：公共・民間それぞれの事業でネットワークを活用

